
全 員 協 議 会 会 議 記 録

令和元年12月13日

会 議 記 録

会 議 区 分	全 員 協 議 会
開 催 年 月 日	開 議 午 前 1 1 時 0 4 分 令 和 元 年 1 2 月 1 3 日 散 会 午 後 0 時 0 6 分
場 所	苫小牧市議会 大会議室
出 席 者	金澤議長、藤田副議長、喜多議員、山谷議員、 板谷議員、触沢議員、竹田議員、宇多議員、神山議員、 大西議員、大野議員、牧田議員、首藤議員、橋本議員、 佐々木議員、小野寺議員、原議員、木村議員、 矢嶋議員、桜井議員、池田議員、越川議員、松井議員、 岩田議員、松尾議員、小山議員、富岡議員
欠 席 議 員	谷川議員
事 務 局 職 員	園田事務局長、宮沢主幹、能代副主幹、 今野主査、小坂主査、高尾主査、新谷主査、吉田主査、 西野書記
付 議 事 件 及 び 議 事 の 経 過 概 要	別紙のとおり

全 員 協 議 会 会 議 案

令和元年12月13日（金）午 時

苫小牧市議会 大会議室

1 案 件

(1) 議員定数について

●議長（金澤俊） ただいまから、全員協議会を開会いたします。

●議長（金澤俊） 本日の案件は、お手元に配付の会議案のとおりであります。

お手元に資料として資料1を配付させていただいておりますので、御確認をお願いしたいと思います。

資料1は、全国における人口16万人以上と人口17万人以上の市の議員定数と議員1人当たりの人口についてを載せてあります。参考までにごらんいただければと思います。

また、ただいま配らせていただきました資料は、前回の全員協議会において発言をされた方々の御意見を要約したものでございますので、こちらも御参考いただければと思います。

それでは、議員定数についてでございますが、さまざま前回御意見をいただいております。

まず、定数28名の現状維持としての御意見といたしましては、議員1人当たりに係る人口を見ると現在の定数で問題はないという御意見、また、人口減少ではあるが定数が減ることで発信力が低下することを考えると現在の定数でよいという御意見、また、若い議員が立候補しやすい環境づくりが必要であり、定数減となると立候補しづらくなるので現状維持と考えるという御意見などがございました。

次に、定数減の御意見といたしましては、総合戦略の人口ビジョンによる人口減少から、税収減や費用対効果を考えると定数4名減の24名がよいのではという御意見、また、急激に減らすのではなく、段階的に減らし、定数2名減の26名がよいのではという御意見などがございました。

そのほかに、定数は多いほうがよいという増の御意見もございました。

議長といたしましては、今後、結論を出すことを考えますと、まだ御意見を言われていない方のお考えもぜひお聞きをしたいと思っております。やはり全員協議会という場でございますので、まだ御意見を述べられていない方から本日は挙手をいただいて、それぞれお考えを述べていただければと思っております。

それでは、定数の考え方につきまして、前回述べていない方、もし今挙手いただきましたら順に御発言をお願いしたいと思います。

山谷議員。

●議員（山谷芳則） おはようございます。

私のほうの考えとしましては、現状維持のほうで進むべきではないかなというのが私の考えであります。

今回の選挙で1年生としてなったわけですがけれども、やはり前回ほかの議員からもあったのですけれども、やはり開かれたというか、ある程度自分が入れるというか、なれるという保障がないとやはり最初の一步の踏み出しというのは難しいのかなと。やはり私も若い議員にどんどんチャレンジしていただきたいという立場でございます。

さらに、減らすというふうになると、一回減らしてしまうと、また今度やはり足りなくなったということでふやすという議論はなかなか難しいのかなという現状を考えております。

議会の役目としては、やはり市民の皆様の見解を広く反映するというのが我々の使命であるというふうに考えたときに、今回の定例会でも20名の方が一般質問した際に、やはり自分の得意分野という部分とか自分の支持者の方の見解を通すというところではやはり十人十色のところがあったかなというふうに私は考えておりますので、現状、市民の皆様のお安心・安全で住みやすい町をつくるためには、現状の人数で機能をしていくことがいいのかなというふうに思います。

仮に削減となったときには、メリットとしては費用という部分があると思いますが、私が今述べたその市民の皆様にお負担がかかるようなことではまずいかなというふうに考えておりますので、私の考えとしては現状維持で考えております。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

他にございますか。

大野議員。

●議員（大野正和） 私の意見と申しますか、個人の意見を言ってくださいというふうな表現で意見を求められているわけなのですけれども、この考えについては個人の考えと会派の考えと本当に一緒でなければいけないというふうな思いでお話しさせていただきます。

前回、神山議員と池田議員が言われていた部分と全く同じでございます。ここには条件つきというふうに書かれているのですけれども、その条件つきという表現がいいのかどうかというのはちょっとわからないのですけれども、やはり現状維持という形で意見として述べさせていただきます。

あとは、通年議会、複数の委員会の所属も視野に入れて検証していくべきというふうに考えます。

あと1つだけなのですけれども、議論するときに、6, 136人で、目安としてそ

の6, 136人の代表というふうになっている目安としている部分はあるのですが、これはちょっと本当にいたずらに6, 136人の代表というふうな表現ではなく、あくまでも17万1, 811人の代表というふうな部分、目安としてこの割り返すのはいいとは思いますが、どこまでもその議論していく最中には17万1, 811人の代表というふうな部分で考えるべきではないかというふうに思っております。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

では、ちょっと順に行っていいですか。

大西議員。

●議員（大西厚子） それでは私の考えを述べさせていただきます。

前回さまざまな判断基準が出されまして、人口ですとかまた有権者だとかまたは議会の運営についてどうなのかというようなことでいろいろ出ましたけれども、まずその判断基準はどこに持っていくのかということで、しっかりとこれも一つの議論になるのかなという思いでおります。

私は、このようないろいろな資料もいただきまして、前回の資料もいただきまして、人口の部分で今回も新しく出た道外の市ですけれども、32名、30名、22名ということで、本市の28名の部分では道内の比較をいたしまして、現状維持でいいのではないだろうか、そのように思っております。

あと、さまざまな判断基準については、それを通しての今度は定数をどう判断していくかということが今後しっかりと議論をしていかなければならないのではないかと、そのように思っております。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

手を挙げた、佐々木議員。

●議員（佐々木修司） 私、結論から先に申し上げますと現状維持でということでも申し上げたいというふうに思うのですが、この間、長い間議論がされてきて今の定数になっているということからすれば、なかなか今の状況も含めてふやすということにはならないかもしれませんが、そうしたことも含めて現状維持ということでは。

先ほどからも御意見がありますように、やはり我々議員、幅広い声をしっかりと議会を通じて市政に反映をしていくということからすれば、今の28が適正ではないのかなというふうに思っていますし、きょう配られた資料、それから前回配られた資料を

見ても、この苦小牧が議員定数が極めて多いというような状況にもないので、これを今議員1人当たりの人口が6,136人ということになっていきますけれども、この6,000という数字を守っていかなければならないということではないのですけれども、他市と比べたときに多いという状況でもありませんので、そうしたことからしても現状維持ということなのです。

それから、この間、御意見の中に検証が必要であるというふうな御意見もありましたけれども、私はいろいろ検証するというだけでも、項目をしっかりと決めて、それに対して分析を行っていくという手法がいいのではないかなというふうに思っています。例えば投票率の低下が懸念されているというような話もありましたけれども、仮にこれを26だとか27とかにすると投票率がどういうふうになっていくのかというような分析も必要ですし、幅広い市民の声を市政に反映をしていくということについても、これが減ったときにどういうことが懸念されるのかといったしっかりとした項目を、項目立てをして分析をしていく必要があるのかなというふうに思っております。当然財政の問題も出てきますけれども、その辺については議会改革の部分で今ICTの議論もされておりますので、そうした観点も含めてしっかりと我々議会議員として議論をしていかなければならないというふうに思っております。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

次に、それでは、松尾議員。

●議員（松尾省勝） では、私のほうからも意見を述べさせていただきたいと思えます。

開かれた議会をしっかりと運営していくためには、やはり数が必要なのかなというふうに思っています。現状28名で構成をされております。今の段階でこの定数を引き上げたり下げたりという考え方は持ち合わせていないので、結論から申し上げますと私は現状維持でよろしいかなというふうに考えています。

同じ議員定数の都市でいろいろな議論がなされた後に、議員定数を削減するか、それともふやしてくかという議論が往々にあるのかなというところも実際のところ考えているのです。それで全員で共有するまでも、そのスタンスなり情報が不足しているのかなと、今現状を鑑みると。そうなると、やはりこの28名で切磋琢磨をして、先進的な事例も含めてより精査をして、この議論を展開していくべきでないかなというふうに思っています。

また、12月までに次年度の結論を出したいというお話もあったのかなというふうに思っているのですが、早期に結論を見出せるのではないかなというふうに考えてい

ます。時間をかけてじっくり精査なり分析をするということも当然必要であります、ある程度の期間、12月ではなくて3月なり、そういったところで一定の方向性を見出せる案件でもあるのかなと思いますので、ここは意見としてお伝えをしたいと思っています。

あと、人口が減っていきます。これから2040年までに14万人、もしくは13万人という数字も示されているわけなのですが、そういった中でまだスパンもあるし、またそこまでにいろいろな考え方も含めて前進できるような議論が進められるのかなというふうに思っています。現状は17万人の都市を誇っていますが、これからまさに人口が減って行って、少ない数でやっていく、いかないと進まない時代も来るのかなと思っていますが、今やはり準備できるところをしっかりと議論できればなというふうに考えています。

また、若い人たちの立候補を妨げるのは、僕としても経験上よくないなと思っていました。3期目を迎えるわけなのですが、私が1期目のときに非常に苦勞した思いもありました。やはりそこで支えてくださっていた全ての方に今でも感謝をしているのですが、中にはやはり手を挙げたい市民もいらっしやると思います。そういったところで今まさにこの人口減少が始まっていて、そういう議論が深まっていく中で、新鮮なその議論をできるのはやはりそこに関心がある手を挙げたい市民だと思っています。ですから、我々現職議員としても、そういった新人さんのいろいろな、立候補する人にはいろいろな取り巻きもあろうですし、ちょっと言葉が悪かったら申しわけないのですが、支えてくださっている方もいろいろといらっしやると思うのですが、やはりそこは選挙ですから、一人一人が切磋琢磨をして、当選に導かれるというふうに考えるのですが、新しい人材を育てることも当然議会としても我々としても必要だと思いますので、そこはしっかりと全員協議会なりそういった場で議論を深めて、人口減少に対峙できるようなそういう議論ができる議会であればなというふうに考えています。

あと、最後に、定数と報酬の議論なのですが、私は別に議論をしていく必要性があるのかなということをお伝えをして、意見にさせていただきたいと思います。

●議長（金澤俊） ありがとうございました。

それでは、首藤議員。

●議員（首藤孝治） 私の個人的見解でありますけれども、私は議員定数については削減すべきというふうに考えております。

前回の協議会のときに越川議員のほうから定数については4名減の24名というお話がありましたけれども、これは現在の人口から割り出して6, 136人から有権者

数に割り返すと4名減ぐらいに当たるというお話がありましたけれども、このお話に賛同したいなというふうに考えております。

ですので、私が補足するところは、人口減少が始まっているというのはもちろんそうだと思いますけれども、国立社会保障・人口問題研究所の推計で2040年には14万人台まで減少するというふうに言われています。そういったことを考えても、あと一番大きいのは立候補者数というのですか、今苫小牧市議会の議員の平均年齢はちょっと調べてこなかったのですが、平均年齢が低くはないなというふうには考えているのです。となったときに、例えば次に交代する議員の方が、本人がやめますよといったときに交代する議員の方が必ず出てくれるような状態であれば問題はないと思うのですが、必ずしもそういう状態にはならない可能性というのももちろんあると思いますし、そうなったときに会派構成というのも一つのポイントになってくるのかなというふうに考えております。この会派構成については今この場で深くお話しするつもりはありませんけれども、そういったところも考えるとやはり4名減というのはやっておいたほうがいいのかというふうに考えております。

ただし、これは次回の選挙で必ず4名減らすというわけではなくて、それは段階を置く必要も、その辺も議論すべきところだとは考えておりますけれども、定数については削減すべきというふうに考えております。

それともう一つは、私は定数と報酬はセットで考えるべきだと考えております。これについては前回の、一番最初に36名の定数から32名に減らしたときが平成15年ですか、このときから報酬についてはずっと変わっていないというのがありますけれども、定数を削減して、そのほか報酬委員会があってそこで議論していただいて、報酬を上げるのか下げるのかというお話しになるとは思いますけれども、決して今の報酬のほうが私は高いというふうには考えていないというのは実際に自分でやってみて多々冠婚葬祭を含めてお金がかかるというのが事実であって、ではこれを若い世代を見たときにこの報酬の中で子育てを含めてやっていけるかという、なかなか難しいというのも現状ではないかなというふうに考えます。また、4年に1回審査されるということでは、もちろん選挙を含めて資金のほうも非常にかかりますし、となったときに、ある程度のインセンティブがないと、これは若い世代から立候補してやってみようという方々には、なかなかつながらないのではないかなというふうに考えております。

ということで、私は定員については削減と、そのときには報酬をセットでということ意見をさせていただきたいと思います。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

先ほど手が挙がっていました牧田委員、何回も済みません。

●議員（牧田俊之） それでは、個人的なことということで前置きさせていただきながら意見を述べさせていただきたいと思います。

皆様の意見を拝聴させていただきました。ふやして新人さんが出やすい環境づくりというのも大事ではないかという話もありました。私もそのとおりでなというふうには思うのですけれども、現状やはり顧みると、もう人口減少、苫小牧市も迎えて何年もたちます。今後は加速度を増して人口減少していくといったところで、今後どうなるかといいますと、市民の皆さんに負担をお願いする。そういうときがもう来ています。もう日々負担をお願いするという、そういうのも私たちの仕事かなというふうに思います。といったところで、この先に現状維持というのも精いっぱいだと思います。議員定数削減は、これは避けて通れない道であるというふうに思っております。数字を申しますと4名減、24名が適切ではないかなというふうに思っています。

根拠としては、次回2023年のところを見ますと、多分16万8,000人前後の人口だと、今先ほど人口比で計算するのもいかなものかという話がありましたけれども、やはり指標としてはそこが見られるのだろうなというふうに思うと、その数字を7,000人で割り返すと24というところも1つと、それとやはり委員会の割り振りも絡んでくるなというところで、24で、今4つの委員会、常任委員会ですけども、3つにしてちょっとその定員をふやしてというところでいうとそこで活発な意見もできるというふうに考えまして24がいいかなというふうに私は思っています。

加えて報酬のほうも少しお話させていただきたいのですけれども、本当はほかの別のところで審議するからここで議論すべきではないというのは確かにわかっていますけれども、なかなか意見として言う場がなかったものですから、私個人的にはやはり報酬は上げるべきだと。若手の優秀な方にチャレンジをしてもいいかなというふうに、そういうふうに思っていたきたいと、そういう思いからということと、それとやはり引退されたベテラン議員の方からも、やはり報酬は上げるべきだというふうに言われたと、そういったこともちょっと申し添えさせていただきます。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

あと手を挙げていたのは、原議員。

●議員（原啓司） 前回の議論でちょっと発言できていなかったので発言をさせていただきますが、前回以降、ちょっと私も皆さんの御意見を聞きながら考えさせてい

いただきました。

結論から申し上げますと、やはり28という定数は今ぎりぎり限界というか、これ以上減らすべきではないというふうに考えております。

議員の役割としては、市民の皆さんの声を集めて市政に反映するということと、また逆に市議会で議論された中身を広く市民の皆さんにお伝えするという役割もあるというふうに考えております。それで、今17万という人口を考えたときに、またこの苦小牧市の地理的な広い地域と、地域的な条件も考えたときに、やはりこれ以上減らしてしまうと多くの市民の皆さんの声、それから市が今取り組もうとしている取り組みの中身をお伝えするところでは、やはり障害が起きてくるのかなというふうに思っております。

この間いろいろ周りのお話を聞いてみますと、やはり市議会でどういう議論が行われているかというのなかなかちょっと理解を、わからないという人も多くいらっしゃる、それから市議会議員のお仕事がどんな仕事なのかと、議会と議会の間はどのような活動をしているのかというのなかなかちょっと理解が、わからない、見えてこないという声もたくさん聞いておりますので、やはりこの28という定数をこれ以上減らしてしまうと、議会、市政と市民との間の距離がますます遠くなってしまいうようなことも心配されると思いますので、私はこの28は最低限守っていくべきではないかなというふうに考えております。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

あと、全員必ずというわけではないのですけれども、もしよかったら木村議員、何かあったら、最初なので何かありましたら発言いただけると。

木村議員。

●議員（木村司） 済みません。これは意見のある方だけが当たるものだと思いますから。

昔から実は思っていることがありまして、今の人数も報酬も、全国的にはきっと世間並みなのだと思います。でも、よくよく考えると、すごく中途半端な人数と報酬なのではないかなという思いはあります。今の現状でいうと、先ほどから4減の24という意見が出ています。28残しておこうという意見もあります。個人的には多分24にして、その報酬セット論の話ではないのですけれども、やはりちゃんともうちょっと上げてもいいのかなというふうな思いが今はあります。

もう一つのこういう議論をするときに多分必要だと思うのは、市民の声をおっしゃるのであれば、全体の議会費はふやさないという前提ですけれども、ボランティアと

は言いませんけれども、40でも50でも人をふやして、一人一人の給料が10万円とか15万円ぐらいにしかないかもしれないけれども、そうすると多分首藤議員もおっしゃっていた、選挙も変わってくるでしょうし、いろいろなことが変わってくるのかもしれない。そういう議論をぜひしてほしいなという、だから両極端なのですからけれども、そういう思いは持っています。

以上です。

●議長（金澤俊） わかりました。

これで、正副議長を除いた皆様に御発言をいただいたこととなります。前回と同様に現状維持、減少したほうがいい、報酬にかかわるところの発言もありましたし、今木村議員からは、さまざまな観点からも定数や報酬のことを考えたほうがいいのではないのかというお話もありました。

今いただいた発言はまた今後、今先ほどお配りした意見集約の中にも入れさせていただきますけれども、きょうはこういった発言、全員の皆さんからいただいたところで、前回、検証を行うべきではないのかという声が何人かの議員さんからいただいていたし、今佐々木議員からもありましたので、私どもとしましては、検証を行うということを進めるに当たって、その内容を具体的にする必要があるのではないのかというふうに思っています。これはもう佐々木議員御指摘のとおりであります。

正副議長といたしましては、検証内容として2つの視点で考えておまして、例えば大きな視点では、前回御意見がありましたように、議員1人当たりに係る人口から見た市民の声の届きやすさはどうなのだ、それから議員による発信力という点からどうなのか、また若い議員が立候補しやすい環境づくりという視点からどうなのだ、こういった観点と、実際の議会運営の28名、それから欠員があった時期がありました、26名のときの実務の面からの視点、この両方の視点から考えてはいかがかなと思っております。

検証について皆さんからいただいた御意見の中にも28年11月から30年の7月の補欠選挙が行われるまでの間、実質26名で議会運営を行ってきたときの感想ですか、委員会の複数所属についての御意見、それから通年議会ということについても御意見をいただいております。委員会の複数所属ですとか通年議会につきましては、否定するものでは決してございませんけれども、市長部局との調整など課題も幾つかありますので、これらの検討にはかなりの時間を要するものというふうに思っております。そのため、委員会の複数所属や通年議会などについては今後継続して協議していくこととしてはいかがかと我々正副議長としては考えております。

その上でですけれども、正副議長といたしましては、検証内容として26名であっ

たときと現状の28名とを比較しまして、本会議における質問、質疑等にどのような影響があったのか、また、委員会において、例えば29年5月から30年7月まで厚生委員会と文教経済委員会を実質6名で行ったといったことがありましたが、このときは審査等にどのような影響があったのかなど、本会議や委員会の機能にどのような影響があったのか、比較をしながらの御意見をもって検証をしてはいかがかと思っております。

正副議長として皆さんの御意見を伺いたい項目として、お手元の資料に配付させていただきましたとおり、5項目ほど考えております。今これから配りますが、配っていただいてから先へまた話しします。今事務局から資料を配ります。

●議長（金澤俊） それでは、項目についてですけれども、本会議、委員会における影響についてをお伺いしたいと思っております。

先ほど佐々木議員から具体的な例えばということですが、項目について具体的な提案もありましたので、この5つに加えて、投票率を上げるためにはどうなのかという視点をもし皆さんありましたらお答えいただきたいと思ひますし、例えば議案等の質疑における影響とかということもかかってくると思いますが、市民の意見の反映という視点からどうなのかということも佐々木議員からもありましたので、それも含めてどんな検証をされているかというのを皆様からお伺いをしたいと思ひます。

26名であった時期を経験していない方もこの中にいらっしゃると思ひますが、現状の人数から減った場合を想定して御意見などをいただければと思ひます。今申し上げましたように、この項目以外にも皆さんが必要と思ひるものは御意見を出して追加をしていただきたいと思ひます。そのような進め方とさせていただいてよろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊） では、今お手元に配付しました項目をもとに、御意見がある方は挙手をお願いしたいと思ひます。

池田議員。

●議員（池田謙次） 今配付をされましたので、思いつくままに話させてもらいますけれども、例えば26名であったときと現状という、ちょっと結論から言うと、これは20であっても18であっても本会議というのは多分その影響を実感するというのは多分難しい。先ほど佐々木議員からもあったように、市民の声というのは目に見えない実感というのは、なかなかちょっと時間かけなければ形にできないと思ひます。

ただ、委員会については6名、多くて7名ということですから、ただ自分が感じて

いるのは今の自分は建設委員会でありますけれども、今の時点ではいいとか悪いのではなくて、やはりそれはもっともっと活発に出て、私は委員会というのは実感ができます。私はもっといろいろな意見が出ていいのかなと。その部分については前から出ているように、今ある4つの委員会がいいのか、3つにしてそれは8名なり10名にすると、私はできれば多くの声が反映される、委員会というのはそういうふうに思っていますから、委員会については自分が実感する部分では本当に、だからどこが正しくてと、ペイラインというのではないけれども、私の実感としては少ないのかなというふうに思っています。

だからその少なさをカバーするために、4つを3つにするとか、ちょっと今のままでいくのであれば複数にするとか。前からあるように、1人の議員さんが違う委員会にも出て意見を述べることができるという、そこを大いに検討をしていただければ、検証いただければなというふうに思います。

この委員会視察についての影響、これはちょっとそれを見て、結構今言ったような形で委員会での発言とか中身といいますか、実感性は先ほど言ったように基本的には少ないと思っていますから、だからいろいろな視察であれ、いろいろな意見に反映ををされているのかなということはありません。少ないという実感です。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

小山議員。

●議員（小山征三） 池田議員の言うことがごもっともだと思って、それに近いような質問なのですけれども、やはりこの本会議の人数というのは、それなりの人数であれば何ぼでもできるのかなと、そのとおりなのです。

ただ、私この委員会の中で、人数構成と審議ということなのですけれども、池田議長のとくに議会改革で池田座長のときですね。私が代表やっけて話したのは、本来常任委員会は1人1カ所だったのですよね。それが地方自治法が改正になって、そして複数所属できるということが当時あって、一番最初にしたのが三重県の議会なのです。それで三重県は定数とかそういうものではなくて、委員会、審議をどうするか。もちろん本会議主義ではないので、委員会の質疑をどうするかということで常任委員会は複数入ることによって、そして活発な議論をしようと、この話は議会改革の中で池田座長のときにも話したのですけれども、それに対してはなかなか議会、市側、市側の対応が議会の日にちが当然複数ですから1日で終わらないで常任委員会は長くなる可能性もあるということですのでそのときは先送りになったのですけれども、私はこの委員会の人数構成のほうが、審査のあり方というのはまさにこれは議会改革の議論なの

で、定数と分けるべきだと思うのです。

定数というのはなかなか検証というのは難しいと思うのです。だから定数は分析をするべきだと。前回話したことをもう一度言いますと、有権者数が前回の平成27年とことしの平成31年では2,000人ぐらいふえていると、これは18歳以上に引き下がったことによって2,000人ぐらいふえていると、ただ、投票率が48.99から46.30になった。この下がったというのは非常に危機的な状況であると、万が一これが定数を減らして30%台になれば議会というものをどう評価していくのかということになるので、この40%ではなくて、やはり50%以上ぐらいに上げなければ今後いけないのかなと。そのためにはこの苫小牧市の、この東西40キロの苫小牧市から幅広い意見を聞いて、議会をやっていくのだと、先ほど言っていた、私も前回言ったのですけれども、人口減少で将来定数を下げていくということは、これはもう避けて通れないのですけれども、現状で一番大事なのは、投票率が下がっていくということをややはり議員としては私自身も危機感をやはり感じているところなのです。だからそこをどうするかとなれば、今の現状で皆さんの努力で私自身もそうなのですけれども、議会として発信すること、そして個人で発信することをどんどんやって、とにかく投票率を上げようということをやまずすべきではないかということをおもいます。

委員会のこの人員構成だとか審査の影響というのは、別に議会改革としてきちっとやるべきではないかなと。

もう一つつけ加えると、これはあくまでも常任委員会の委員会視察なのですけれども、特別委員会の委員会視察で14人、理事者側も入れれば十何人でどんと行くのもどうなのかなと。テーマを決めて半分ずつにして、違うところに行ってもいいのではないかなと思うのです。だからそういうのも含めて議会改革でテーマをやるべきだと。

それともう一つ、つけ加えを。この定数だけの議論を延々とするべきではないと思うのは、早ければ早いほど、決着をつけて、次の議論に入ることが大事かなと。確かにお尻は来年の12月で切ったのですけれども、できればもっと早く、先ほどいろいろな意見が出たので、ここで例えば現状維持、減らす、ふやすというのはなかなか挙手してどうのこうのというのはいかないので、表にしてこのそれぞれの意見を書いてもらって、各個人が集約した中で、1カ月、2カ月、3カ月、そしてその中で自分の意見と違えばお互いに話をしながら、そして理解を求めながら行って、次の議会でも私は来年の2月、3月でも結論を出していてもいいのかなと、どうするかと。ただ、私はこの投票率が下がっていくというのは危機的な状況ではないかと考えています。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

きょうは12時までの予定でいますので、あと残すところ15分ほどですが、どんどん御意見を。

小野寺議員。

●議員（小野寺幸恵） 私の考え方として、今検証のことが議題になっていると思うのですが、検証ということがどういうことなのか、イメージが湧いていません。多くの議員の皆さんが検証するべきだという御意見があったわけです。それで検証していくということを否定するつもりはないのですが、今5項目上げていただいたのを見てみると、これを検証することがこの定数削減もしくは定数維持、ふやしていくということの回答が導かれる項目なのかどうか、私にはとても理解ができていません。

それで、多くの複数の議員さんたちが検証するべきだという声が上がっていたので、この5項目を望んでいるのか、それともほかの形の検証を望んでいるのかという、そういう意見を聞いた上で、この5項目がいいのかどうかということも判断したいなと思っておりました。

以上です。

●議長（金澤俊） 今小野寺議員からありましたけれども、この項目を今5項目示させてもらいましたのは、前回検証が必要だという声が続かいたいたのですけれども、その時点で具体的に何か検証項目があるかどうか、もしくはどういう方法がいいのかというのを私から皆さんに質問させていただきましたけれども、そのときは特になかったので、ただ、検証をするという声はありましたので、ではやはりやる、検証するからには具体的な何か項目を上げなければ検証のしようがないだろうという中で今回正副議長案としてこの5項目を上げさせていただきました。

先ほど申し上げましたが、これ以外にもこういう視点から検証したらいいのではないかというものがあればどんどん言っていただきたいと思います。要するにこの今の28名の定数でいいのかどうかという検証ですので、もしくは26という時代もあって、議会もここまでやってきた。その当時やった経過もありましたので、そういう視点から何か具体的な項目は上げなければいけないだろうということで今回示させてもらいましたので、今小野寺議員からあったようなことについても、この項目でいいのかというようなことについても、もしあればぜひ上げていただきたいと思います。

神山議員。

●議員（神山哲太郎） 僕は項目、何でもいいと思うのです。ただし、これが例え

ば検証するに当たっては、36名のときはどうだったのかとか、30名のときはどうだったのか、どういう議論がされていたのかと、そのところをまずしっかり表面に出してほしいなと思うのです。36名のときに例えば何年間、どのぐらいの議員さんが一般質問をして、どういう議論をされてきたのか、そしてその議論の結果、それも踏まえて減らす要素になったというのは当然これはあると思うのです。これはその減らす要素になったことをしっかり検証しなければいけないと思うのですけれども、ちょっとそういうふうなことで検証しなければ、これは近年だけの話を、28名だけの話をしてしまうと、これは僕はちょっと検証にはならないのではないかなというふうに思っているのですけれども、その辺はどういうふうに考えているのか、ちょっと申しわけないのだけれども、こういう提案をさせていただいて。

だから、どちらかという各会派でもいすし、何名か検証委員会か何かをつくって、長くやるわけではないですけれども、集中してやるというのも一つのやり方かもしれないので、その辺はどうなのかなと今思っていたので、ちょっと聞きたいのですけれども、よろしいですか、議長。

●議長（金澤俊） 実は今回の全員協議会に、この検証の仕方も幾つか案がありました。アンケートを事前に皆さんにお配りして、この場でそのアンケート結果について議論をするというようなことも考えましたし、今言われたようなその検証チームみたいなものを各会派から出して検証を何らかの項目に基づいてやるというのもありましたけれども、案としては言っていましたけれども、最終的に全員協議会なので、皆さんからこういう御意見をどんどん発言してもらったらいのではないかとということで正副で考えてこのような一応項目を上げて出しています。

だから36人までちょっとさかのぼってしまうと、当時いた人って、谷川議員がきょうは休んでいますけれども、谷川議員ぐらいだったのか、富岡議員もいらっしやっした、失礼しました。池田議員も手を挙げていますけれども、ですから、なかなかそうになると、今手を挙げた方も当時のことから比較して言っていただいてもいいですけれども、松井議員、何か発言ありますか。いいですか。

松井議員。

●議員（松井雅宏） 私も初当選のときに、36名定数でございました。

新人だったので議会の仕組みも何もわからなくて、1期目を過ごしたわけでありましてけれども、当時は一般質問も1時間ありました。だから根本的に比較検討するといっても難しいのですよ。確かに会派から2人ぐらい当時出て、1時間びっちり、そのやり方がよかったかどうかは別として、一括方式でやっていたわけですよ。今回はもうそういう段階的に議会改革でいろいろな改革を進めてきた中で今の形になっていま

すので、ですからその当時と今を比較しても私はちょっと定量的な比較という意味では意味がないのではないかなというふうに思っています。

それと、あと検証といっても感覚的なことしかないのです。1年生の方々が感じるものと期数を重ねていっている人が感じていることも多分同じこと、同じ場所に同じように身を置いていても感じ方が違うと思いますので、そういった意見をとりあえず出し合って、あとはえいやとまとめるしかないというふうに私は思っています。

以上です。

●議長（金澤俊） 矢嶋議員。

●議員（矢嶋翼） 私も36名も経験していますし、26名も経験させていただきました。自分としては余りその数字にこだわらないで、とにかく与えられた人数の中で議論しようという環境でしたので、多いよなとか足りないよなとかという、そういう意識はなくて、きちんとやるのだと、仕事としてきちんとやるということだけでしたので、僕は別にいる人数で切り抜けようということを最優先にしてやりましたので、それなりに使命を果たせたかどうかはわかりませんが、その与えられた人数の中で議論するしかないよねという中で覚悟して過ごしてきたつもりです。

そして、またちょっと済みません、話がそもそも論になろうかと思えますけれども、実際これは自分たちの身分にかかわることですので、この定員、定員の議論を我々だけで、当事者だけで決めていいのかという、私たちは市民の意見をここに持ってくるのだということですから、では、その市民の皆さんは、この28名が多いよねとか少ないよねと、せめて多少は何らかの方法で、市民の皆さんはどう思っているのか、これはやはり時間を余りかけないで、そして報酬についても、報酬もやはりやりづらいわけですよ。自分たちの報酬幾らかとやりづらいから、やはり第三者機関にお願いしているわけですよ。ですからやはりこの定数についても我々だけで勝手に決めてしまっているのかなという、今のこの時代、昔はオーケーだったかもしれませんが、この時代において我々だけで決めましたからということ突っ走ってしまっているのかどうかという、そういった疑問もあるので、何らかの形で一般市民の声も、多過ぎると思っているのか、少ないと思っているのか、多少何ぼか市民の皆さんの空気を探りたいなと思っておりますので、僕の理想は報酬も定数も第三者機関がある程度提案していただけたほうが僕は楽だと思っている一人です。そのあたりどう、我々以外の方の意見を聞くことも何とか何らかの方法でいただきたいなと思っております。

●議長（金澤俊） わかりました。

桜井議員。

●議員（桜井忠） 私も36人を経験しておりますが、今松井議員や矢嶋議員が言われたようなことで、いろいろ制度も違いますから大変そうかなというふうには思います。ただ私は、その定数だとか給料のものばかりではなくて、議員というのはやはり市のいろいろな、もし万が一何か一般に言えないようなことをやっていたりとかそういうものを見つけて指摘をすると、やはりそこに我々も一生懸命やっていた。1期目のときに矢嶋議員と同じ会派を組んで、あと阿久津君と3人、少年探偵団というふうに言われておりましたけれども、しかし私は少年探偵団と言われながら、そのときいろいろなことを指摘をして、それぞれ情報を持ち寄ってやっていたというふうに思っています。それが今はそういうのは余り見られなくなった。やはりそのときのそういう活動は私は決して間違っていなかったというふうに思っています。

これはちょっと言いにくいのですが、逆の立場から、理事者側から言いますと、前は1時間あって一問一答ではなかったですから、最後の10分、15分がやはりどうしてもこれをという感じで聞いてくるわけですね。そうすると、そこから逃げられないような、がんじがらめでだんだん絞ってくるものですから、そこでいろいろな切磋琢磨が議会との間であるわけですが、40分になったことによって、そういうのが本当に少なくなったという実感をしています。そういう意味で私は、議会改革して変えてきたことですから仕方がないことですが、我々はお金が幾らかかるか、その人数を減らしたらこれだけかからないという議論よりも、やはりそういう議員として市政に対してチェック機能を持つという意味で、それが私は非常に重要なのではないかなというふうに思っています。

以上です。

●議長（金澤俊） 他にありますか。

越川議員。

●議員（越川慶一） 今いろいろ皆さん本当に議論されて、本当に全員協議会、こういう形でいいなというふうに思っておりますけれども、検証の話であります。やはり実際にその定数の2名いなかったとき、そこが一つのポイントになってくるのではないかというふうに思っておりますので、そこで議会の運営がそうできていたのかというようなことだというふうに思っています。

これがまさに検証に値するのではないかと、前回もちょっとそういうお話もさせていただきましたけれども、私が感じるころでは、26名でその当時も議会運営としてはそれなりに成り立っていたらというふうに思っています。また、何か課題があったのか、またはあったとすればどういうところが課題だったのかというようなことがやはり検証のポイントかなというふうに思いますし、26名だったときに、私も

その会派の代表もさせていただいたときもありましたし、それから議会検討会のメンバーでもあったということもありますけれども、そのときには公式の場でどなたも特にそのふぐあいがあるというような発言というのはなかったかなというふうに思っていますし、誰かがそこで何かを提案してくる、そういうようなことはなかったのではないかなというふうにも思っています。議会としては、ですから運営ができていたかなというようなところであります。

ただ、何人かお話が出ていましたけれども、常任委員会の人数の関係については、やはり5名で審議をする。委員長もいて5名で審議をすると、そういうような場面もありましたので、私はこれは何度か議会改革検討会の場でも少し提案をさせていただきましたけれども、このあり方についてやはり考えていくべきではないかというようなことだったと思います。

一つ提案としてですけれども、苫小牧市議会の交渉会派というのは2名以上という、そういう決まりになっています。したがって、各会派が各委員会に所属をするというような意味合いを考えれば、今の常任委員会4つを2つにするというのも1つのたたき台として提案をさせていただきたいなというふうに思います。そうすれば各会派から各委員会のほうに所属がされる。また、近年の委員会の進み方を見ますと、午前中、さらには午前中を超えて少しの委員会の時間というのがありますので、ここを2つにして午後もびっちりやる。そういうようなこともいろいろ検討課題にはなるのではないかなと思います。

あと、市民の意見を広く聞くというお話も出ていましたけれども、いろいろ今我々も議会改革の中で議会だより等々で広く皆さんにお伝えをするような努力はしていますが、今度は聞く場というのを持っていないということです。報告会というわけではありませんけれども、今議会だよりで市民の皆さんの意見を聞くようなフリートク的なものもやっていますから、こういうようなものを議会としてやってはどうかということも考えています。

あと、検証項目として、最初に議会の費用の削減という話も私も前にさせていただきましたけれども、議会費全体でトータル的には何%ぐらいが削減できるのかというところもやはりこの検証のポイントになるのではないかなというふうに思います。議員報酬もそうですし、定数も当然ですけれども、報酬もそうですし、それから政務活動費、これなんかもそうだと思いますし、先ほど小山議員のほうからも出ていました委員会の視察の関係、こういうのももしかしたら全て廃止をするなんていうことも費用の削減にもつながるのかなというの、これはいろいろ考えていくべきだなというふうに思います。

あと、先ほど言った市民意見の聞き取りの方法ですね。どうやったら今の人数で聞き取りができるのか、人数を減らしても市民の意見を広く聞くことができるのか、こういうことを議会改革の検討会の中でも議論をしてもらいたいというふうに思いますし、それからあと、人数が減って若い方とか新人が出づらい環境になるのではないかというような懸念もあるというふうには思いますけれども、逆に私は狭き門だからこそしっかりとした政策を打ち出しながら立候補をしてくる、そういうような候補者があらわれるのではないかというふうに思います。そういうような形で定数で議員に立候補するということではないというふうに思いますから、そういうような意味でもいろいろなそういう気持ちを逆に立候補につなげていただくような、そういう候補者がたくさんあらわれることを期待したいなというふうにも思っているところです。

以上です。

●議長（金澤俊）　ありがとうございます。

ちょっと時間が過ぎましたけれども、最後、山谷議員が一生懸命手を挙げてくれたので、山谷議員。

●議員（山谷芳則）　済みません。ちょっと時間オーバーですが、簡潔に私の話をさせていただきます。

本会議とか委員会に関しましては、やはり先輩議員の方々からいろいろ意見を聞いて考えていかなければならないかなと思いますので、私のほうからは、1年生議員として、先ほど出ていた小山議員からの投票率の関係とその定数のところで私のほうの見解を簡単に述べさせていただきますと、定数と投票率というのは僕の中ではリンクしないかなというところの考えです。1年前を考えると、僕はただ一市民だったときに、この議員になるということはまだイメージできていないですし、ではその立場のときにどうだったかという、定数が多い、少ないという考えは全くなかったのです。

では、いざ自分がこういう立場になるときは、お膳立てしていただいてというところで、僕が今回この立場になれたときの特徴としては、今までで選挙に行ったことのない人とか、選挙に興味がなかったという方を仲間につけられたかなというところが大きかったのかなと思います。

私も今立場上、中学生とかと多く接するところで今どうということなのだよと、議会とはこういうことなのだよというのを知らせる機会があるので、そういうところで知らせてあげると、今まで知らなかったなというところで興味を持ってくれるというところを今実感しています。単純に言いますと、議会に興味がなかった人からの一意見としては、極論を言うと定数なんて半分でもいいのではないというふうに言われることも結構最初はあったのです。ただ、その中で、今まで何もわからなかったというか関

心がなかった方にこういうことで議員が必要なのですということを訴えていくことで、ああ、それであればやはり必要だよねという議論になっていくと思うのです。

なので一般的な考えとして、要らないものは減らせというのが一般的な考えになってしまうと思うので、我々としてはこれぐらいをやらなければならないからこの定数が必要なのだということを我々のほうから市民に提唱していくことで、それであれば必要なのではないか、それでもやはり多いのではないかというところの議論が来たときにはまた考えなければならないのかなというのが私の一の考えであります。

なのでいずれにしても、投票率のところに関しては、28人なら28人でもっと今までと違うところを切り口を開いて、新規の開拓をしていかなければならないところなのかなというのが考えでございます。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございました。

もう時間が過ぎてしまったので、神山議員、次回にと思いますが、よろしいですか。次回でいいですか。済みません。1時からまた控えておりますので。

それでは、次回の全員協議会にまたこの議論は継続して行っていきたいと思っております。その上で、今後、結論を出していきたいと考えております。

なお、次回の全員協議会の日程及び時間につきましては、後日改めて議員の皆さんに通知をさせていただきたいと思っております。

●議長（金澤俊） 以上で、本日の全員協議会を終了いたします。

散 会 午後0時06分

以 上。

全国の議員定数について

■人口16万以上～

全国市議会議長会より
(平成30年12月31日現在)

市区名（都道府県）	人口 (A)	定数 (B)	議員1人当たり人口 (A) / (B)
今治市（愛媛県）	160,178	32	5,006
栃木市（栃木県）	161,363	30	5,379
大垣市（岐阜県）	161,539	22	7,343
秦野市（神奈川県）	161,628	24	6,735
中央区（東京都）	162,502	30	5,417
松阪市（三重県）	164,568	28	5,877
新座市（埼玉県）	165,336	26	6,359
宇部市（山口県）	165,425	28	5,908
都城市（宮崎県）	165,433	29	5,705
帯広市（北海道）	166,889	29	5,755
小山市（栃木県）	167,480	30	5,583
浦安市（千葉県）	169,443	21	8,069

■人口17万以上～

市区名（都道府県）	人口	定数	議員1人当たり人口 (A) / (B)
磐田市（静岡県）	170,038	26	6,540
釧路市（北海道）	170,364	28	6,084
苫小牧市（北海道）	171,811	28	6,136
高岡市（富山県）	171,958	27	6,369
弘前市（青森県）	172,031	28	6,144
西尾市（愛知県）	172,260	30	5,742
習志野市（千葉県）	173,205	30	5,774
出雲市（島根県）	175,227	32	5,476
佐倉市（千葉県）	175,833	28	6,280
鎌倉市（神奈川県）	176,369	26	6,783

意見概要

現状維持	減	増	その他 条件付	定数と報酬の関連
<p>・定数は多いほうがよいが、人口減少により定数は現状維持がよいと考える。</p> <p>・若い人が立候補するには、定数減では難しいため間口を広げる必要がある。(小山議員)</p> <p>・議員は市民の代表であり、定数削減をすると議員1人当たりの負担が大きくなり、議会改革である市民の声を聞くということに逆行する。</p> <p>・指標として人口ではなく有権者数といった意見もあったが、18歳未満の子の意見も聞かなければならないと思う。</p> <p>・定数28名は最低ライン。(小野寺議員)</p> <p>・議員1人当たりの人口で見ると、定数に問題なく、仮に6,000人を切ったら、定数減の議論をするべきと考える。(岩田議員)</p> <p>・苫小牧は東西に長いこともあり、今の定数は少ないくらいでもう1人2人増やしてもいいくらいである。(富岡議員)</p> <p>・若い人が立候補しやすい環境づくりが必要。定数減となると組織票がある議員は出やすいが、組織を持たない人は出づらくなるため現状維持と考える。(竹田議員)</p> <p>・定数が多いということは発信力があることになり、定数を減らすと発信力も減ると考える。</p> <p>・若い人が立候補するためにハードルを下げることも必要。</p> <p>・検証は、26名だったときでいうと、本会議中心主義なので、委員会の人数が減っても余り影響がないと考える。(板谷議員)</p> <p>・人口から見ると、定数は現状維持と考える。(喜多議員)</p>	<p>・人口推移、市民理解を考えると減の方向で考える。(矢嶋議員)</p> <p>・人口減少に伴う税收減、費用対効果の現実を受けとめ、定数4名減の24名と考える。</p> <p>・人口ではなく有権者数で考えると、R1.9.1現在144,859人/6,136人≒24人</p> <p>・26名で運営していたときもあるので定数削減は可能と考える。(越川議員)</p> <p>・過去に市が財政的に厳しいときに、職員減の話があり、市議会も定数減を行ったが、急激に減らすのではなく、まず定数を26名に削減し、今後段階的に削減する。(谷川議員)</p> <p>・正しいと思う定数はそれぞれ違う。過去の議論は意味がないと考える。総合戦略における人口ビジョンを見ると2040年には14万人台と人口減少について載っている。これまでどおりではなく、議会として質を高め、若い優秀な人材が目指すような魅力ある議会にしていくべき。(松井議員)</p>	<p>・定数は増やすべきであり、報酬も上げるべきである。(舂沢議員)</p>	<p>・同日選挙の話のときに28名の現状維持としていたが、検証の結果を出すべきであり、増減の議論はその後と考える。</p> <p>・検証は、26名のときの委員会等の機能の検証を行い、委員会中心主義、複数の委員会の所属、通年議会も視野に入れて考えるべき。(神山議員)</p> <p>・分析、検証が必要。</p> <p>・4年前と比べて今回の有権者数は2,000人増えていたが、投票率は下がった。よって投票率を上げることを考えるべき。(小山議員)</p> <p>・委員会のあり方などについて今後意見を述べたい(小野寺議員)</p> <p>・検証をするべき。</p> <p>・数も大事だが、議員の質、中身も力をつけなければならない。(議会改革=議員改革)(池田議員)</p> <p>・定数の増減ではなく、何人が適正なのかということ議論する必要がある。</p> <p>・委員会の適正な人数、あり方を議論した上で、定数について議論するべき。例えば委員会数を増やし、1人が複数に所属するなど。(桜井議員)</p> <p>・議会の活動を市民に伝えたいと思う。</p> <p>・子育てをしている若い人などは、議員に立候補するにはお金がかかるという意見が出ており、子育て中の人議員としてやっていくのは大変な環境ではないかと思う。</p> <p>・26名で議会運営をしていたとき、常任委員会の委員長としては、委員長を除いて5名での議論を見て、もう少し人数がいて議論を深めてほしいと思った。(宇多議員)</p> <p>・若い人は仕事やお金のことを考えると立候補が難しい環境である。新しい人が立候補できる環境づくりを議論する必要がある。(橋本議員)</p>	<p>・報酬と定数を分けて考えたほうがよい。(矢嶋議員)</p> <p>・報酬と定数は別に考えるべき。(神山議員)</p> <p>・報酬と定数は別に考える。(小山議員)</p> <p>・報酬と定数はセットでなくてもよいが、関連はある。(越川議員)</p> <p>・若い人の立候補のためにも、定数減、報酬増でセットで考えてもよい。(谷川議員)</p> <p>・報酬は、決定する組織が報酬審議会であるため、定数と報酬がセットにはならない。(池田議員)</p> <p>・定数と報酬との関連づけは必要。(松井議員)</p>

26名であったときと、現状28名との比較検証

※26名であった期間：平成28年11月から30年7月補欠選挙が行われるまで

本会議

- ①質問人数への影響について
- ②質問時間への影響について
- ③議案等の質疑における影響について

委員会（参考：H29.5～H30.7厚生委員会・文教経済委員会 実質6名）

- ④人数構成と審査等への影響について
- ⑤委員会視察等への影響について